

2021年(令和3年)6月29日(火曜日)

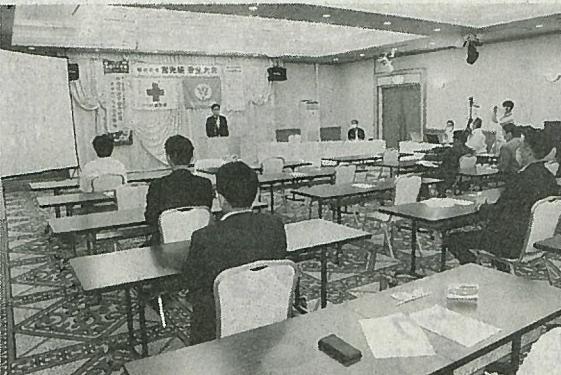
労災防止の徹底誓う

吉光組が安全大会開く

吉光組(小松市、吉光

岳文代表取締役社長)の

21年度安全大会は26日、同市長崎町のルートイングランティア小松エアポートで開催され、社員と協力企業で構成する吉翔会の関係者らが労働災害防止の徹底を誓った。新型コロナ対策として会場は少人数どし、リモート形式で開かれた。全体で約100人が参加した。



リモート形式で開かれた吉光組の安全大会④と吉翔会による献血奉仕

席上、吉光社長はヴィズコロナ時代における働き方改革を推進していく姿勢を強調。その上で「人手不足や作業員の高齢化が進んでいる。コロナ対策を講じながら、安全働きがいのある環境をつくるために力を合わせ取り組んでいく」と

「あいさつや声かけを心がけ、慢心せずに未来に安全をつなげていこう」と呼びかけた。引き続き、現場での優れた安全管理をたたえ、

60人が献血奉仕

吉翔会など社会貢献

吉光組は、ルートイングランティア小松エアポート前で献血ボランティア活動を実施した。同社

前沢組と日精工業が安全表彰を受けた。この後、吉光組の道勇治専務取締役が安全活動を報告。活動方針や重点推進事項などを説明。墜落・転落による労働災害事例も紹介した。同社の高松辰男執行役員土木統括部長が安全宣言を読み上げ、吉光成寛取締役副社長が閉会あいさつした。

吉翔会会长で三創建設の川口智長代表取締役も「あいさつした。吉翔会など社会貢献活動を実施した。同社や協力企業の社員ら約60人が血液不足の解消に協力しようと、社会貢献に取り組んだ。献血協力者は、タッチパネルで問診に答え、血圧測定などの検診を受けた後、県赤十字血液センターの献血バスに乗り込み、400ミリットルの採血を行った。

同社では安全大会の開催に合わせ毎年、献血活動を実施している。